

平成29年度事業報告

社会福祉法人 恵和会
さざんか園小畑デイサービスセンター
小畑在宅介護支援センターさざんか園
さざんか園ホームヘルプサービス
銚子市東部地域包括支援センター

ーはじめにー

今回、2018年度（平成30年度）の介護報酬改定では、主に利用者の自立支援や重度化防止への取り組みに対して重点的に報酬が手厚くされました。しかし一方では、報酬が抑制されたサービスもあります。今改定で見送られたことは、必ず3年後の改定で再度議論されます。毎回このように制度改定の度に、経営戦略を変更または改善していく必要があります。

29年度を振り返ってみますと、マイナス要因が多い中、如何にして前年対比を下げない、また近づけるようにするかを、最大限の努力を持って職員共々頑張ってきました。「小畑デイサービスセンター」は在宅支援のみでの経営ですので、改定の度に、人員配置の変更や加算の取得に努力し、取得できるものは全て取ることに尽力して参りました。また、何処の事業所でも今一番の苦勞は職員の確保ですが、現在いる職員のスキルアップを常に目指すべく、外部研修へ参加を積極的に推進させることで、質の向上を忘れないように努力しております。

また、ハード面については、設立15年の経過と共に、各箇所、各機種、修繕を余儀なくされ、それに伴う支出も多かったことも事実ですが、これは利用者の利益に資することですから必須でありやむを得ません。このように課題の多い年度でありましたが、一つ一つ課題を解決してきた一年でありました。

さて、冒頭で申し上げました、3年後の改定で見直されると予想されるものに、訪問介護の生活援助について市町村事業（地域支援事業）に移譲されることや、利用回数に上限を設けることや、また身体機能が維持・改善される利用者が多い場合の加算（リハビリ効果の評価など）の増額や仕組み等の拡大が考えられます。これも増加し続ける社会保障費を抑制するための戦略であることは言うまでもありませんが、より効果的な介護サービスの位置づけを迫られることとなります。

これらのことを踏まえながら今後も、制度改正に振り回されることなく、法人の目的を達成し、かつ今後の中長期の経営の安定化を図るべく、常に取り組むべき課題を明確にして経営計画を立てていき、対象とする利用者や提供するサービス、地域のなかでの位置づけなどをしっかり見ていきたいと思っております。